



日本はひとつ
しごとプロジェクト

平成 24 年 2 月 3 日

【照会先】

職業安定局 派遣・有期労働対策部

需給調整事業課

課 長 田 畑 一 雄

派遣・請負企画官 三 上 誠 順

主任中央需給調整指導官 鈴 木 徹

(代表電話)03(5253)1111 (内線 5323)

(直通電話)03(3502)5227

報道関係者 各位

原子力発電所で実施される業務について、労働者派遣・請負の 適正な実施を要請しました

この度、原子力発電所の改修工事に際して、請負事業と偽装しながら、作業員を送り込んで注文主の指揮命令の下で労働に従事させ、職業安定法第44条（労働者供給事業の禁止）に違反した疑いで、請負業者の役員等が逮捕され、略式起訴されるという事案が生じました。

こうしたことを踏まえ、原子力発電所での業務の実施に当たって、労働者派遣法や職業安定法の規定に基づき、労働者派遣や請負が適切に実施されるよう、電力会社や主要経済団体・労働者派遣事業団体・建設業団体に要請を行いました。

また、当該事案に関する、職業安定法及び労働者派遣法の違反事実に関しては、関係労働局が関係機関と連携をとり調査を進めている他、2月2日に全国の労働局需給担当者を集めた会議、2月3日に全国の職業安定部長等を集めた会議を開催し、調査・指導監督について必要な指示を行っています。

平成24年2月3日

(電力会社) 取締役社長 殿

原子力発電所で実施される業務に係る適正な労働者派遣及び請負の
実施に関する要請書

労働行政の推進につきましては、日頃より御尽力を賜り感謝申し上げます。

この度、原子力発電所の改修工事に際して、請負事業と偽装しながら、作業員を送り込んで注文主の指揮命令の下で労働に従事させ、職業安定法第44条（労働者供給事業の禁止）に違反した疑いで、請負業者の役員等が逮捕され、略式起訴されるという事案が生じました。

労働者派遣法により、自己の雇用する労働者を他人の指揮命令の下で労働に従事させること（当該他人と労働者の間に雇用関係が生じないものに限る。）は、労働者派遣に該当するものとされており、一般労働者派遣事業の許可を受けるか、特定労働者派遣事業の届出を行わなければ、労働者派遣事業を実施できないこととされています。なお、建設業務（土木、建築その他工作物の建設、改造、保存、修理、変更、破壊若しくは解体の作業又はこれらの作業の準備の作業に係る業務）については、労働者派遣事業を行うことはできません。

また、職業安定法により、労働者供給事業（労働者を送り込んで、他人の指揮命令の下で労働に従事させる事業。例えば、供給元・供給先と労働者の間で二重に雇用関係がある場合や、供給元との間で支配従属関係にある労働者を、供給先の指揮命令の下で労働に従事させる場合など。なお、労働者派遣事業は該当しない。）は、労働組合及びこれに準ずるものが厚生労働大臣の許可を受けた場合以外は、実施できないこととされています。

請負事業と称しながらも、実態として、労働者派遣事業や労働者供給事業に該当する場合には、いわゆる偽装請負とみなされ、労働者派遣法や職業安定法に違反しますので、業務の発注に当たっては、労働者派遣法や職業安定法に違反しないよう、十分に注意してください。なお、労働者派遣と請負との区分については、「労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準」及び「労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準（37号告示）に関する疑義応答集」をご確認ください。

原子力発電所での業務の実施に当たって、労働者派遣法や職業安定法の規定に基づき、労働者派遣や請負が適切に実施されるよう、貴社の業務の発注を受ける関係企業に対する周知啓発の程、よろしくお願い申し上げます。

厚生労働省 職業安定局長
森 山 寛

平成24年2月3日

(主要経済団体・労働者派遣事業団体・建設業団体)の長 殿

原子力発電所で実施される業務に係る適正な労働者派遣及び請負の
実施に関する要請書

労働行政の推進につきましては、日頃より御尽力を賜り感謝申し上げます。

この度、原子力発電所の改修工事に際して、請負事業と偽装しながら、作業員を送り込んで注文主の指揮命令の下で労働に従事させ、職業安定法第44条（労働者供給事業の禁止）に違反した疑いで、請負業者の役員等が逮捕され、略式起訴されるという事案が生じました。

労働者派遣法により、自己の雇用する労働者を他人の指揮命令の下で労働に従事させること（当該他人と労働者の間に雇用関係が生じないものに限る。）は、労働者派遣に該当するものとされており、一般労働者派遣事業の許可を受けるか、特定労働者派遣事業の届出を行わなければ、労働者派遣事業を実施できないこととされています。なお、建設業務（土木、建築その他工作物の建設、改造、保存、修理、変更、破壊若しくは解体の作業又はこれらの作業の準備の作業に係る業務）については、労働者派遣事業を行うことはできません。

また、職業安定法により、労働者供給事業（労働者を送り込んで、他人の指揮命令の下で労働に従事させる事業。例えば、供給元・供給先と労働者の間で二重に雇用関係がある場合や、供給元との間で支配従属関係にある労働者を、供給先の指揮命令の下で労働に従事させる場合など。なお、労働者派遣事業は該当しない。）は、労働組合及びこれに準ずるものが厚生労働大臣の許可を受けた場合以外は、実施できないこととされています。

請負事業と称しながらも、実態として、労働者派遣事業や労働者供給事業に該当する場合には、いわゆる偽装請負とみなされ、労働者派遣法や職業安定法に違反しますので、業務の発注や受注に当たっては、労働者派遣法や職業安定法に違反しないよう、十分に注意してください。なお、労働者派遣と請負との区分については、「労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準」及び「労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準（37号告示）に関する疑義応答集」をご確認ください。

原子力発電所での業務の実施に当たって、労働者派遣法や職業安定法の規定に基づき、労働者派遣や請負が適切に実施されるよう、貴団体の全国の会員企業に対する周知啓発の程、よろしくお願い申し上げます。

厚生労働省 職業安定局長
森 山 寛

要請先の一覧

○ 電力会社

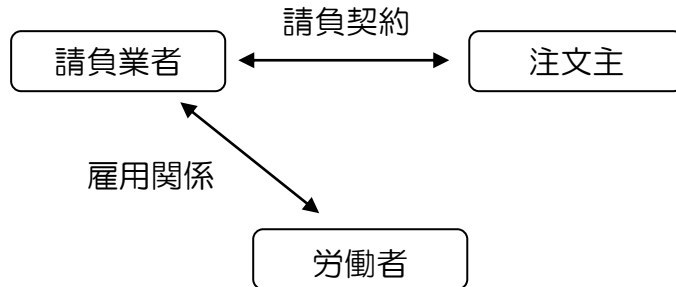
北海道電力株式会社
東北電力株式会社
東京電力株式会社
中部電力株式会社
北陸電力株式会社
関西電力株式会社
中国電力株式会社
四国電力株式会社
九州電力株式会社
沖縄電力株式会社
日本原子力発電株式会社
日本原燃株式会社
電源開発株式会社

○主要経済団体・労働者派遣事業団体・建設業団体

社団法人日本経済団体連合会
日本商工会議所
全国中小企業団体中央会
社団法人日本人材派遣協会
社団法人日本生産技能労務協会
日本エンジニアリングアウトソーシング協会
日本サービス業人材派遣協会
中部アウトソーシング協同組合
社団法人全国建設業協会
社団法人日本建設業連合会
社団法人全国中小建設業協会
社団法人建設産業専門団体連合会
一般社団法人日本建設業経営協会
社団法人全国建設産業団体連合会
社団法人日本道路建設業協会
社団法人日本空調衛生工事業協会
一般社団法人日本電設工業協会
全国建設労働組合総連合

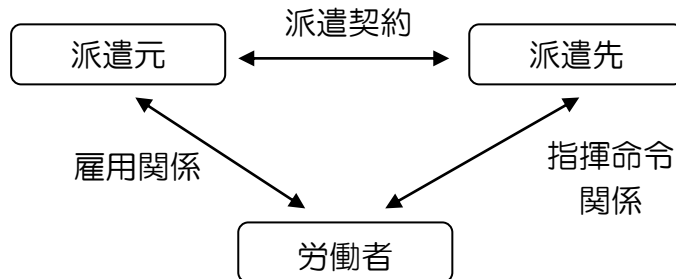
請負・労働者派遣・労働者供給のイメージ

①請負



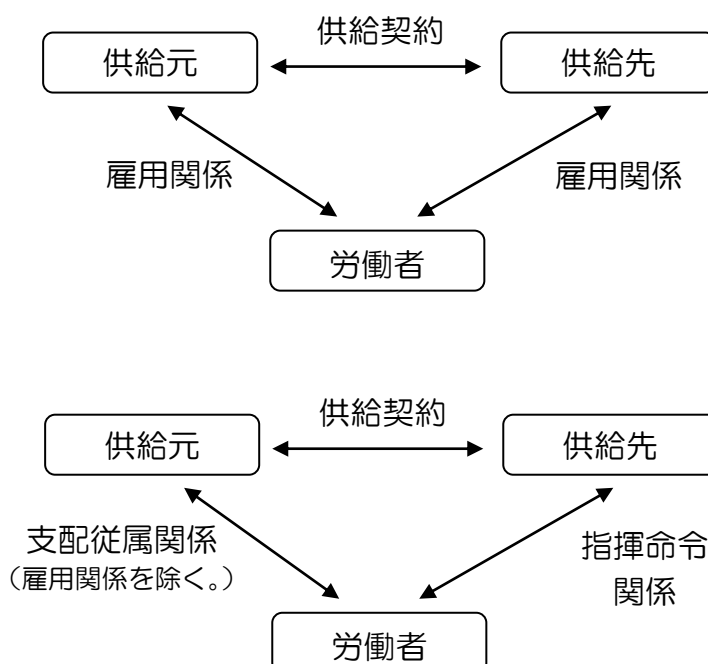
実態として、「注文主」と「労働者」の間に指揮命令関係や雇用関係があると判断されれば、労働者派遣・労働者供給に該当するので、注意が必要です。

②労働者派遣



一般労働者派遣事業の許可を受けるか、特定労働者派遣事業の届出を行わなければ、労働者派遣事業を実施できません。

③労働者供給



労働組合及びこれに準ずるものが厚生労働大臣の許可を受けた場合以外は、労働者供給事業を実施できません。

労働者派遣法・職業安定法の関係条文

○労働者派遣法（労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律）

（用語の意義）

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 労働者派遣 自己の雇用する労働者を、当該雇用関係の下に、かつ、他人の指揮命令を受けて、当該他人のために労働に従事させることをいい、当該他人に対し当該労働者を当該他人に雇用させることを約してするものを含まないものとする。
- 二 （略）
- 三 労働者派遣事業 労働者派遣を業として行うことをいう。
- 四 一般労働者派遣事業 特定労働者派遣事業以外の労働者派遣事業をいう。
- 五 特定労働者派遣事業 その事業の派遣労働者（業として行われる労働者派遣の対象となるものに限る。）が常時雇用される労働者のみである労働者派遣事業をいう。
- 六 （略）

第四条 何人も、次の各号のいずれかに該当する業務について、労働者派遣事業を行ってはならない。

- 一 （略）
 - 二 建設業務（土木、建築その他工作物の建設、改造、保存、修理、変更、破壊若しくは解体の作業又はこれらの作業の準備の作業に係る業務をいう。）
 - 三 （略）
- 2 （略）
- 3 労働者派遣事業を行う事業主から労働者派遣の役務の提供を受ける者は、その指揮命令の下に当該労働者派遣に係る派遣労働者を第一項各号のいずれかに該当する業務に従事させてはならない。

（一般労働者派遣事業の許可）

第五条 一般労働者派遣事業を行おうとする者は、厚生労働大臣の許可を受けなければならない。

2～5 （略）

（特定労働者派遣事業の届出）

第十六条 特定労働者派遣事業を行おうとする者は、第五条第二項各号に掲げる事項を記載した届出書を厚生労働大臣に提出しなければならない。この場合におい

て、同項第三号中「一般労働者派遣事業」とあるのは、「特定労働者派遣事業」とする。

2・3 (略)

(派遣元事業主以外の労働者派遣事業を行う事業主からの労働者派遣の受入れの禁止)

第二十四条の二 労働者派遣の役務の提供を受ける者は、派遣元事業主以外の労働者派遣事業を行う事業主から、労働者派遣の役務の提供を受けてはならない。

○職業安定法

(定義)

第四条 (略)

②～⑤ (略)

⑥ この法律において「労働者供給」とは、供給契約に基づいて労働者を他人の指揮命令を受けて労働に従事させることをいい、労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律（昭和六十年法律第八十八号。以下「労働者派遣法」という。）第二条第一号に規定する労働者派遣に該当するものを含まないものとする。

⑦ (略)

⑧ この法律において「労働者供給事業者」とは、第四十五条の規定により労働者供給事業を行う労働組合等（労働組合法による労働組合その他これに準ずるものであつて厚生労働省令で定めるものをいう。以下同じ。）をいう。

⑨ (略)

(労働者供給事業の禁止)

第四十四条 何人も、次条に規定する場合を除くほか、労働者供給事業を行い、又はその労働者供給事業を行う者から供給される労働者を自らの指揮命令の下に労働させてはならない。

(労働者供給事業の許可)

第四十五条 労働組合等が、厚生労働大臣の許可を受けた場合は、無料の労働者供給事業を行うことができる。

労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準関係

○労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準

第一条 この基準は、労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律（昭和六十年法律第八十八号。以下「法」という。）の施行に伴い、法の適正な運用を確保するためには労働者派遣事業（法第二条第三号に規定する労働者派遣事業をいう。以下同じ。）に該当するか否かの判断を的確に行う必要があることにかんがみ、労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分を明らかにすることを目的とする。

第二条 請負の形式による契約により行う業務に自己の雇用する労働者を従事させることを業として行う事業主であつても、当該事業主が当該業務の処理に関し次の各号のいずれにも該当する場合を除き、労働者派遣事業を行う事業主とする。

一 次のイ、ロ及びハのいずれにも該当することにより自己の雇用する労働者の労働力を自ら直接利用するものであること。

イ 次のいずれにも該当することにより業務の遂行に関する指示その他の管理を自ら行うものであること。

(1) 労働者に対する業務の遂行方法に関する指示その他の管理を自ら行うこと。

(2) 労働者の業務の遂行に関する評価等に係る指示その他の管理を自ら行うこと。

ロ 次のいずれにも該当することにより労働時間等に関する指示その他の管理を自ら行うものであること。

(1) 労働者の始業及び終業の時刻、休憩時間、休日、休暇等に関する指示その他の管理（これらの単なる把握を除く。）を自ら行うこと。

(2) 労働者の労働時間を延長する場合又は労働者を休日に労働させる場合における指示その他の管理（これらの場合における労働時間等の単なる把握を除く。）を自ら行うこと。

ハ 次のいずれにも該当することにより企業における秩序の維持、確保等のための指示その他の管理を自ら行うものであること。

(1) 労働者の服務上の規律に関する事項についての指示その他の管理を自ら行うこと。

(2) 労働者の配置等の決定及び変更を自ら行うこと。

二 次のイ、ロ及びハのいずれにも該当することにより請負契約により請け負った業務を自己の業務として当該契約の相手方から独立して処理するものであること。

イ 業務の処理に要する資金につき、すべて自らの責任の下に調達し、かつ、支弁すること。

- ロ 業務の処理について、民法、商法その他の法律に規定された事業主としてのすべての責任を負うこと。
- ハ 次のいずれかに該当するものであつて、単に肉体的な労働力を提供するものでないこと。
 - (1) 自己の責任と負担で準備し、調達する機械、設備若しくは器材(業務上必要な簡易な工具を除く。)又は材料若しくは資材により、業務を処理すること。
 - (2) 自ら行う企画又は自己の有する専門的な技術若しくは経験に基づいて、業務を処理すること。

第三条 前条各号のいずれにも該当する事業主であつても、それが法の規定に違反することを免れるため故意に偽装されたものであつて、その事業の真の目的が法第二条第一号に規定する労働者派遣を業として行うことにあるときは、労働者派遣事業を行う事業主であることを免れることができない。

○「労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準（37号告示）」に関する疑義応答集

以下のURLをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/dl/haken-shoukai03.pdf>